



新年のご挨拶



会長 齋藤 和巳

あけましておめでとうございます。

会員園の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのことと思います。

昨年をふり返りますと、まず、国においては、「子ども・子育て支援法」が平成27年4月より施行され、いよいよ新制度がスタートいたしました。多少の混乱はあったものの都内の各区市町村においては、スムーズに移行できたのではないかと感じています。しかし、未だ未だ、保護者も我々事業者も、そして自治体関係者も制度の詳細部分まで理解できていないので、引き続き新制度の理解に向けた取り組みが必要と考えています。

一方で、国における保育三団体は、昨年1年間鋭意協議を進め「保育三団体協議会実務者会議」において、三団体が歩調を合わせながら、国に向けた共通の要望事項の取りまとめを行うなど、重要な役割を担っています。

都においては、10月14日に「東京都子供・子育て会議」が「計画策定・推進部会」と合同で開催され、東京都子供・子育て支援総合計画の中間評価の方針について話し合われました。

そして各区市町村においては、27年4月より、いよいよ「地方版子ども・子育て支援推進事業計画」が動きはじめ、待機児童対策に伴う新たな受け皿の整備や、様々な子育て支援事業の展開が始まりました。しかしこれに伴い、保育士のニーズはますます高まり、人材確保にこれまで以上の努力が必要となる事でしょう。協会において取り組んでいる「TOKYO保育園フェア」も昨年4回目となり、年々学生の入場者数も伸びています。この事業は雇用対策部を中心に各専門部から実行委員を選出して、協会を挙げて取り組んでいます。今年も重要な役割を果たしてくれることと期待しています。

当協会の会員園も、12月現在で892園を数えるようになりました。今後も会員数の増加が見込まれ、ますます当協会の役割や使命は増大していく事と身が引き締まる思いであります。そして、平成28年は、(公社)全国私立保育園連盟の全国大会を7月4～6日に東京で開催すべく、その実行委員の先生方も、いよいよあと半年となり、気運が盛り上がってきています。会員の皆さまには、人的支援・金銭的支援等々お世話になることがございますが、是非とも素晴らしい研究大会に仕上げたいと願っていますので、どうぞ、よろしくお力添えをお願い申し上げます。

昨年は事務局も拡張し、複数の会議や少人数の研修会が同時に開催できるよう改善しました。昨年6月に会長を再々任させていただき、引き続き、今後の日本の子どもたちが健やかに育ち得る社会を目指して、会員の皆様と共に力を尽くしていきたいと考えています。今年1年もどうか宜しくお願い申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。